



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山田 美鈴

令和8年5月11日

第2号

開校記念日に寄せて

校長 山田 美鈴

令和8年度に入り1か月が過ぎました。本校の生徒たちは皆進学・進級の決意をもって年度初めの4月を走り抜けました。春の語源は「草木の芽が土をはねのけて出る(張る)」様子から来ていると言われますが、寒い冬を越え植物が一気に地中から芽吹いてくる様子は、まさに現在の石神井中生と重なります。誰もが自分らしさを自覚しつつ成長しようとする一人一人の意気込みを受け止めて、励ましつつ大切に育ててまいります。

さて5月1日は本校の開校記念日でした。本校は第二次世界大戦後の昭和22年5月に開校し次年度には開校80周年記念式典を迎える、区内でも歴史と伝統のある学校です。

当時は戦後の混乱期で食糧が不足し、子供たちはいつもお腹を空かしていたようです。そのような苦しい時代の中、新しい学校制度のもと、この地に子供たちのために中学校を作ろうとご尽力いただいた地域の方々や区当局の方々には、改めて感謝しなければならないと感じます。

この80年間で本校を巣立っていった卒業生は18,979名(令和7年度卒業生まで)となり、その多くは様々な分野で社会進出を遂げ活躍されています。「不易流行」という言葉がありますが、どんなに長い歴史を超え社会情勢が変わってきたとしても、生徒たちの明るく伸びやかで自由闊達な気風は、今でも伝統として脈々と受け継がれているように思います。

本校は北側に富士街道が通り、南側には石神井川と都立石神井公園、西側には練馬区立松の風公園の緑が大きく広がり、「緑と泉に囲まれた学び舎」と言っていほど環境に恵まれています。校章は石神井公園にある三宝寺池の代表的な植物であるミツガシワが象徴的です。聞くとところによると、三宝寺池は日本最南端のミツガシワ生息地であり、恵まれた自然環境の中で、本校が豊かに発展することを願って開校当時に校章が制定されたそうです(本紙面左上)。

今でも歌い継がれている校歌は、元本校保護者であり、文化勲章も受賞された詩人の故草野心平氏作詞によるもので、歌中の「赤松の林の彼方 みはるかす 不二の夕映え」とあるように、当時の石神井中は現在の石神井公園側に広い校庭をもち、都内で1,2位を争う広さでした。そしてその広大な校庭を赤松の林が囲み、冬晴れの夕刻には遠く富士山を望めたようです。

今では近隣に「ふるさと文化館」や「石神井図書館」等の立派な文化施設があり、本校としても部活動を中心として地域と連携した様々な教育活動を展開しています。

昨年度は生徒会役員が音頭を取り、石神井中マスコットキャラクターを公募で集約し決定しました。校章とともに、今後はあらゆる場面でこのマスコットキャラクターを登場させ、石神井中の象徴としてまいります。(マスコットキャラクターは裏面掲載の通り)

また本校が地域から愛される学校としてより発展を目指していくために今年度から「学校運営協議会」(コミュニティスクール制度)を導入することとしました。簡単に言えば学校から地域へ協力依頼するという関係から、学校と地域が協働して学校運営の改善を図っていく体制となります。(今年度の学校運営協議会委員は裏面の通り)。

新たな歴史を刻んでゆく原動力はまさしく現在の在校生一人一人です。その生徒たちを保護者や地域の皆様とともに力を合わせ、信頼される学校づくりに向け教職員一同取り組んでまいります。